

学生支援制度報告

IUNS 21st ICN International Congress of Nutrition に参加して

農学研究科 生物生産科学専攻 動物生産学講座
 栄養制御学研究室 修士2年 志賀 加奈

私は10月15日から20日にアルゼンチン・ブエノスアイレスで開催された、International Congress of Nutrition (IUNS 21st ICN) に参加しました。本学会は1946年以降4年ごとに開催されており、本年度は「科学から栄養へ」というモットーに基づき、国際的な多文化環境における様々な栄養問題に取り組むことを目的として開催されました。私は、“Functional Foods and Bioactive Compound”分野で“Analysis of the mechanism of isoleucine induced glucose uptake into skeletal muscle”というタイトルでポスターセッションを通し研究成果を発表いたしました。

私が取り組んでいる研究で着目している必須アミノ酸の一種であるイソロイシンは、分岐鎖アミノ酸 (BCAA) として知られています。イソロイシンは骨格筋での血中グルコース取り込みを促進させることで、血糖値を低下させる作用を持つことが知られています。今回の発表では、動物の骨格筋や筋細胞を用いて、イソロイシンのグルコース取り込みに関与する分子機構の解析結果を発表いたしました。

ポスターセッションを通し、専門内外、外国の方々で議論させていただきました。初めての国際学会であり、私が

思った以上に英語で伝えることや、訛りのある英語を聞き取る事に苦戦しました。国際学会ならではの感じる事だと思いますが、自身の研究を伝えるためのツールとしての英語力の重要性を痛感しました。それだけではなく、研究に興味を示してくださった方々の質問や意見、シンポジウムの拝聴はとても貴重なものになりましたし、それが今後の研究のブレークスルーにも繋がったと思います。

今回のICNが開催されたブエノスアイレスは、南米のバリと言われるほどの美しい街並みでした。巨大な三角江があるラ・プラタ川に面し、フランス語で「良い (ブエノス) 空気 (アイレス)」という意味を持つ首都です。日本とは異なる文化、街並み、人柄に触れ、学会を超えた様々なことを学び、感じることができました。

最後になりますが、このような地での学会発表という貴重な経験に支援してくださった峰ヶ丘同窓会の皆様にご心より御礼申し上げます。



アジア獣医解剖学会に参加して

農学研究科 生物生産科学専攻 動物生産学講座
 動物機能形態学研究室 修士2年 林 美紗

私は2017年10月15-16日にマレーシアのクチンで行われた The 6th Congress of Asian Association of Veterinary Anatomists (AAVA) に参加してきました。

この学会は、獣医解剖学や動物形態学など様々な分野の研究者が集まる学会です。

私は“Distribution of the mechanoreceptors in the beak of Japanese Jungle crow” (ハシブトガラスの嘴における機械受容器の分布) というタイトルでポスター発表をさせて頂きました。鳥の嘴はヒトの手や唇のように触覚を受け取る触覚感覚器と言われており、嘴の皮膚には触覚刺激を受け取るセンサー (機械受容器) が存在していることや、嘴には機械受容器から刺激を脳へ伝達する神経が通っていることが知られています。今回の研究では、嘴の皮膚に存在している機械受容器がどのように嘴に分布しているのか未解明であったため、ハシブトガラスを用いて、嘴には機械受容器がどの部分に多く分布しているのか、またどんな種類の機械受容器が嘴に分布しているのかについて発表させていただきました。

英語での研究の説明は難しかったですが、インドネシアや韓国などの外国の人たちに伝えたいという一心でプレゼ

ンやディスカッションをしていました。拙い英語でしたがなんとかコミュニケーションを取ることができ、外国の研究者の方達から私の研究に大変興味を持っていただけました。その結果、光栄なことにポスター発表賞を受賞することが出来ました。興味を持っていただけただけでもとても嬉しいですが、賞を取れたことで大きな自信となりました。

今回の学会参加で、日本や海外の研究者、学生とたくさん話すことができ、知り合いもたくさん出来ました。また、マレーシア観光名所 (文化村、オラウータンの自然保護センター) なども回ったり、マレーシアの食べ物をたくさん堪能したり出来てとても楽しむことができました。

今後も研究活動や発表等を通して、日々精進していきたいと思っています。

最後になりましたが、研究指導をしてくださった杉田先生、楽しい研究室生活を共に過ごしてくださっている研究室の方々、そして国際学会への参加にあたり、峰ヶ丘同窓会のご支援にご心より感謝致します。

